

一般社団法人日本病理学会 平成 29 年度事業報告

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

事業の概要

I. 学術集会、研究会等の開催

1. 学術集会の開催
 - (1) 第 106 回日本病理学会総会 (於東京・落合淳志会長)
 - (2) 第 63 回日本病理学会秋期特別総会 (於東京・内藤善哉会長)
2. 研究会、講習会等の開催
 - (1) 第 14 回日本病理学会カンファレンス
 - (2) 細胞診講習会
 - (3) 病理診断講習会・分子病理診断講習会・剖検講習会
 - (4) 第 11 回診断病理サマーフェスト
 - (5) 各支部における学術・研究集会、「夏の学校」等
3. 市民公開講座・シンポジウムの開催

II. 学会誌、学術図書等の発行

1. 「日本病理学会会誌」の発行 (第 106 巻第 1～2 号)
2. 「Pathology International」の発行 (Vol.67 4～12、Vol.68 1～3)
3. 「診断病理」の発行 (第 34 巻第 2～4 号、第 35 巻第 1 号)
4. 「日本病理学会会報」の発行 (第 351～362 号)
5. 「お知らせ」(第 28 号～31 号) の発行
6. 「病理専門医部会報」の発行 (平成 29 年 第 2～4 号、30 年 第 1 号)

III. 研究および調査並びに知識の普及

1. 「日本病理剖検輯報」の発行 第 58 輯 (平成 27 年症例)
2. 剖検輯報編集方法の充実
3. 剖検記録データベースの更新
4. 病理学卒前教育の充実
5. インターネットホームページの充実
6. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 委託事業の実施
 - (1) 「ゲノム研究用試料に関する病理組織検体取扱規定の策定及び病理組織取扱いに関する実証研究」

(2) 「AI等の利活用を見据えた病理組織デジタル画像(P-WSI)の収集基盤整備と病理支援システム開発」及び「人工知能の利活用を見据えた日本病理学会、日本医学放射線学会の画像連携による原発性脳腫瘍のデータベース連携における問題点・課題の抽出および地域連携における自立・持続型画像登録連携拠点の基盤構築・整備」

IV. 研究の奨励および研究業績の表彰

1. 日本病理学賞(宿題報告)の授与
2. 病理診断学賞(病理診断特別講演)の授与
3. 日本病理学会学術研究賞(A演説)の授与
4. 日本病理学会学術奨励賞の授与
5. 100周年記念病理学研究新人賞の授与

V. 病理専門医等の資格認定及び病理診断関連活動

1. 病理専門医・口腔病理専門医の認定・試験の実施及び資格の更新
2. 病理専門医の広報
3. 病理専門医研修施設の認定および資格の更新
4. 病理専門研修プログラムの運用指導
5. 暫定分子病理専門医の認定
6. 病理解剖研修の充実
7. 生涯教育の充実
8. 病理診断コンサルテーションシステムの充実
9. 病理精度管理体制の充実
10. 各種ガイドラインの作成(「ゲノム診療用病理組織取扱い規程」他)
11. 医療における病理診断・病理解剖の推進

VI. 学術団体等との協力、連絡

1. 学術団体等との会議共催および後援(国内)の実施
2. 腫瘍取扱い規約等の改訂
3. 海外病理学会との交流
 - (1) 英国病理学会との会員の相互派遣、学術交流
 - (2) ドイツ病理学会との学術交流
 - (3) アジア各国との学術交流

VII. その他目的を達成するために必要な事業

1. 会員システムの導入
2. 医師賠償責任保険加入取扱いの実施